

報道各位

《新野菜の食卓浸透度アンケート》

食卓における野菜の浸透度調査より

ここ数年、海外産の野菜や、目新しい中国野菜・西洋野菜が、スーパーの店頭でも日常的に見られるようになり、おしゃれなイタリアンレストランやエスニックレストランで覚えた野菜が比較的簡単に入手できるようになりました。

また、有機栽培をうたった野菜は市場を確立し、「オーガニック」という外来語も目にする機会が増えました。自然食品の専門店や専門宅配サービスなども好調に伸びています。

一方、家事の簡便化志向に支えられて、カット野菜、冷凍野菜、野菜専用調味液などの市場も拡大してきました。

社団法人日本能率協会グループの運営するメンバー制ビジネス情報提供サービス機関マーケティング・データ・バンクでは、一般家庭の食卓における野菜の実態をとらえるため、購買行動、常備野菜とニーズの高い野菜、冷凍野菜・カット野菜等の使用、目新しい野菜の認知率・購入経験、有機野菜やオーガニック等のイメージなどについて首都圏在住の20～50代の主婦1,000人を対象にアンケート調査を行い、804人から有効回答を得ることができました。

その中から、最近首都圏の店頭で見かけることの多くなった新野菜に焦点を当て、家庭への浸透度をご報告いたします。

[本件についてのお問い合わせ先]

(株)日本能率協会総合研究所 マーケティング・データ・バンク

担当：土井/仁科/野元

電話：03-3578-7556

〒105 東京都港区芝公園3-1-38 秀和芝公園3丁目ビル4F

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。

1. これからの食材が多い新西洋野菜

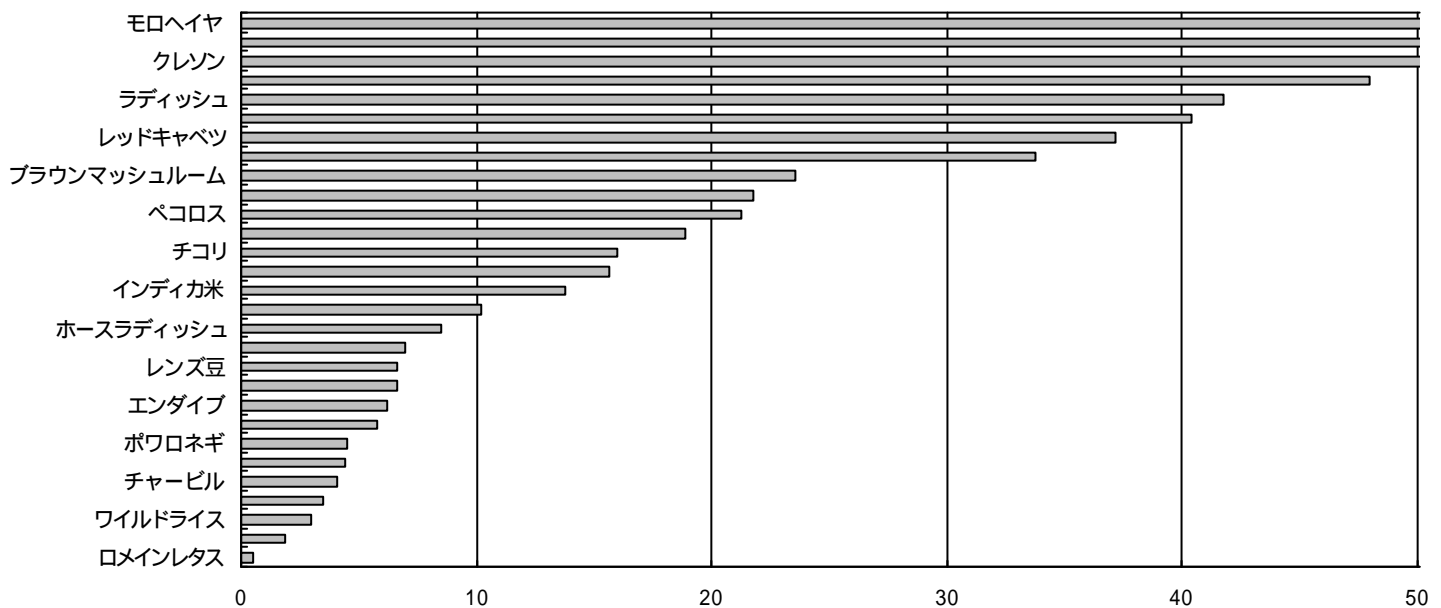
モロヘイヤ、赤ピーマン・黄ピーマン、クレソンは過半数が購入

最近目につくことが多くなってきた新西洋野菜 29 種について購入経験を聞いたところ、過半数をしめたのは、モロヘイヤ、赤ピーマン・黄ピーマン（パプリカ）、クレソンでした。

スパイスや家庭菜園でおなじみのバジル、ローズマリー、イタリアンパセリといったハーブについては、1～2割の家庭で生のハーブとして購入したことがあるようです。

最近話題のイタリアンの食材については、ズッキーニは2割近くの人が購入したことがあると答えましたが、イタリアンパセリ、ルッコラ、エンダイブなどは1割前後と、家庭での浸透はこれからといえます。

購入したことのある新西洋野菜

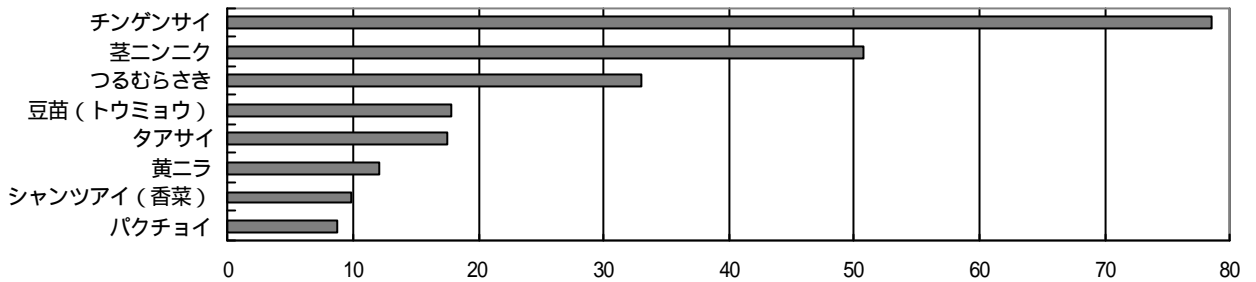


2. 定着ねらう新中国野菜

第二のチンゲンサイになるのは何か

中国野菜8種について購入経験を聞いたところ、チンゲンサイは8割近くが購入しており、すっかり日常的な食材となっています。次いで茎ニンニク、つるむらさきが浸透しています。黄ニラ、シャンツアイ（香菜）、パクチョイは1割前後と、まだまだこれからの食材のようです。

購入したことのある新中国野菜

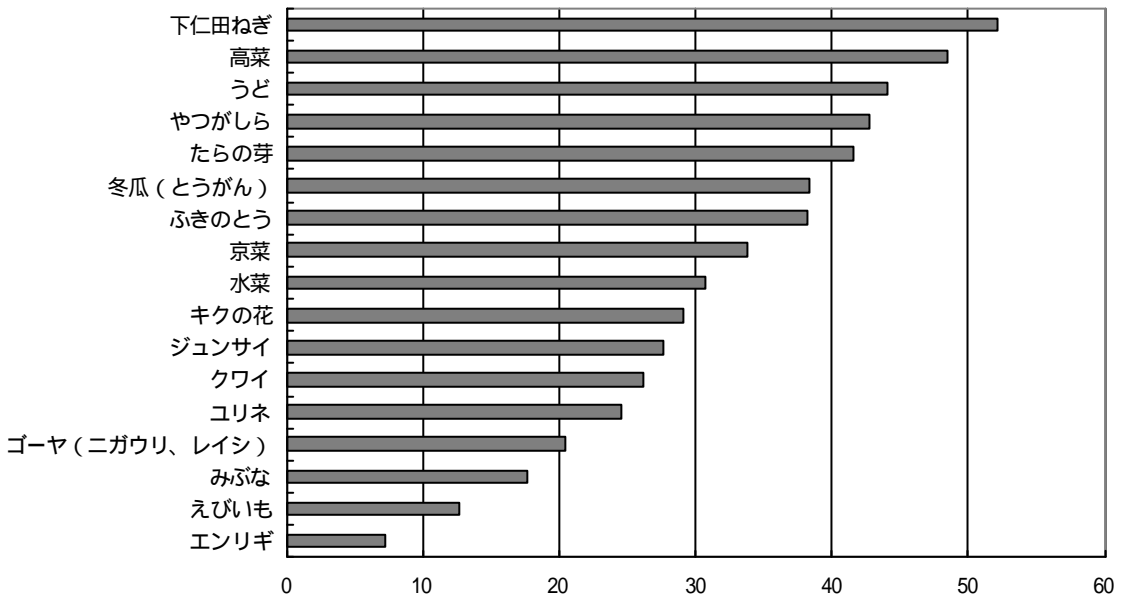


3. 健闘する地方野菜

下仁田ねぎ、高菜は半数の家庭で登場

最近首都圏の店頭で見かけることの多くなった地方発の野菜など17種について聞いたところ、下仁田ねぎ、高菜などは半数が購入経験があると答えており、全国区の野菜に近づいているようです。

購入したことのある地方発の野菜



[今回の調査について]

「食卓における野菜の浸透度調査」は、一般家庭の食卓における野菜の実態をとらえるため、購買行動、常備野菜とニーズの高い野菜、冷凍野菜・カット野菜等の使用、目新しい野菜の認知率・購入経験、有機野菜やオーガニック等のイメージなどについて首都圏在住の20～50代の主婦1,000人を対象に調査を実施いたしました。

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業にご参加いただく方式でいたしました。調査は終了しておりますが、調査結果一式のご提供は下記費用を申し受けます。

- ・費用：1社につき定価36万円(MDBメンバーは32万円)
*別途消費税を申し受けます。
- ・調査項目：53問
- ・調査のアウトプット
 - 調査報告書 (A4版 29ページ)
 - 集計結果表 (A4版 316ページ)
 - ・調査概要 ・調査票 ・自由回答一覧票 ・単純集計表
 - ・クロス集計表 年齢/結婚歴/職業/家族人数/家族形態/同居している未成年の子供の有無/家族状況/海外旅行経験/野菜の購入/常備野菜・ニーズの高い野菜/加工野菜/目新しい野菜/野菜全般についての意識と行動/野菜の表示についてのことばのイメージ/食生活全般の意識と実態

[マーケティング・データ・バンクとは]

マーケティング・データ・バンクは、社団法人日本能率協会グループのシンクタンク、株式会社日本能率協会総合研究所(略称：日能総研 社長：高地高司 本社：東京都港区)の運営する、国内最大級のメンバー制ビジネス情報提供サービス機関です。

開設以来30年近く、日本を代表する様々な業種の企業約2,000社の企画/調査/営業/技術部門の方々にご利用いただいております。官庁統計、公開調査資料、業界紙、各種民間企業発表資料など約12万冊の蔵書を有し、独自の検索システムを構築いたしております。

各種業界事情に通じ検索手法をマスターしたスタッフにより、さまざまなビジネスデータを提供することが可能です。

電話1本で必要な情報を入手できるシステムとして、年間約12万件のメンバー企業のお問い合わせに的確、迅速に対応し、情報収集のパートナーとして高い評価をいただいております。

[本件についてのお問い合わせ先]

(株)日本能率協会総合研究所 マーケティング・データ・バンク
 担当：土井/仁科/野元
 電話：03-3578-7556
 〒105 東京都港区芝公園3-1-38 秀和芝公園3丁目ビル4F

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。